



防災ヘリコプターの紹介 (参加協力機関8機関・ヘリ8機)

1 宮城海上保安部 ヘリ機体名「うみねこ」



巡視船「ざおう」搭載機である「うみねこ」は、製造後、33年が経過した、旧型「しおかぜ」の代替機として、2015年12月から運用開始。
最新鋭のシコルスキーS76D型で全長16m、座席数14、時速287km、赤外線捜索監視装置、自動操縦装置などを装備している。

2 宮城県警察本部 ヘリ機体名「くりこま」



双発の小型ヘリコプター。
流線型の機体で、高速性能に優れ、ヘリコプターテレビシステムを活用して、パトロールや各種情報収集といった場面で活躍している。
平成19年2月に導入され、定員は8名である。

3 陸上自衛隊 東北方面航空隊 ヘリ機体名「ハンターUH1J」



陸上自衛隊の主力ヘリコプターとして、1993年から調達を開始し、全国に約130機が配備されている。
ホイスト装置、映像伝送装置、赤外線暗視装置、地雷散布装置等多くの器材を装備し、空中機動作戦や災害派遣など多岐にわたり活躍している。
全長17.44m、定員13名、航続距離370km、最大速度240km/hである。

4 福島県消防防災航空隊 ヘリ機体名「ふくしま」



平成10年4月から運行を開始、福島県は全国3位の広大な面積を有し、緊急出動も海、山、川、湖と災害活動が多岐にわたっているため、広範囲で機動性に富んだ消防防災ヘリの活動が期待されている。
型式は、ベル412EP型で、全長17.1m、定員15名、航続距離783km、最大速度243km/hである。

5 宮城県防災航空隊 ヘリ機体名「みやぎ」



災害時のヘリコプターの位置情報及び動態状況の共有を可能とするヘリコプター動態管理システムを搭載し、さらに、飛行中に取得した映像情報をヘリコプターから直接人工衛星に伝送するヘリサットも搭載可能です。
全長13.68m、搭乗員数14名、航続距離778km、最大速度269km/hである。

6 仙台市消防航空隊 ヘリ機体名「けやき」



この機体は、仙台市の政令指定都市への移行に伴い、都市化の進展や市域の拡大など、広域化に対する災害対応力の強化を図るため平成4年度から導入された。機内には高規格救急車と同等の資機材を搭載し、高度な救命処置も行えます。
型式はベル式412EP型、全長17.1m、航続距離656km、巡航速度226km/hである。

7 岩手県防災航空隊 ヘリ機体名「ひめかみ」



平成8年10月から運行開始。
広大な面積を有する岩手県の「空からの消防防災活動」に活躍している。型式はベル412EP型、全長17.1m、定員15名、航続距離590km、巡航速度204km/hである。

8 山形県消防防災航空隊 ヘリ機体名「もがみ」



平成10年から運行開始、山形県は北に鳥海山、南に西吾妻山を始めとする蔵王山や月山など名だたる秀峰に囲まれているため、山岳救助が非常に多く、また、離島(飛島)もあるため、ヘリコプターでの活動が有効となる地域が数多くあります。
型式はアグスタ式AW139型、全長16.62m、定員12名、最大巡航距離800km、最大速度309km/hである。

防災ヘリコプターの主な装備・資機材

救助用ホイスト(最大荷重272kg)



先端のフック付きワイヤーで救助隊員を降ろしたり、要救助者の引上げなどを行うための装置です。

ヘリコプターテレビ電送システム



上空から災害現場を撮影し災害対策本部などに情報を送るシステムです。

消火バケツ(容量1,230ℓ)



林野火災などで空中消火するために使用します。

サーチライト(1,600W)



地上を照射し、災害時の情報収集や捜索・救助活動などを支援する装置です。

etc.
機種により、装備品等が異なります!